

令和6年度 事業計画

1. 事業の概要

(1) 教育・研究活動の充実（中期計画に基づく年度計画）

- ① 2024年度新入生から、「データサイエンス・AI学修プログラム」としてリテラシーレベルを全学部に、応用基礎レベルを家政学部を設置し、データサイエンスに関する授業の推進を図り、このプログラムを文部科学省の認定制度に申請する。
- ② 学修成果の可視化を目的に、「建学の精神に基づく深い教養と高い専門性に富む学士力の形成への貢献」の各項目について、学生がどのくらい獲得しているか把握できるグラフ表記を試み、学生が学修成果を実感するとともに、今後の学修目標のきっかけとなるようにしていく。
- ③ 学術研究所助成研究の指定課題研究に、女子大学の特性を活かした研究として、「女性研究」を設定し、本学の特性・強みを活かした研究の促進を図る。

(2) 併設校の特色ある教育の推進（中期計画に基づく年度計画）

① 中・高等部

- ・授業形態や定期試験の作問について工夫を行うとともに、学校行事、補習・講習、模擬試験分析等を効果的に組み合わせることにより、生徒のより高い学力を育成する。
- ・教員一人ひとりの指導技術の向上を図るため、管理職や外部有識者による授業見学、教員同士による相互参観、生徒・保護者からの授業アンケートを活用する。
- ・2026年度からの男女共学化を視野に入れ、男子生徒の指導技術についても積極的に身につけていく。
- ・2026年度からの男女共学化に向けて、学内外の説明会だけでなく、公立中学校訪問等により積極的な情報発信を行うとともに、中等部・高等部の広報組織との連携を図り、計画的、効果的な広報活動を推進する。

② 初等部

- ・「ていねいできめ細やかな授業」を実現するため、毎時間、意図的・計画的に質の高い授業、全児童が何時でも集中して学習することができる授業、児童の興味・関心を大切にした授業を展開する。
- ・授業時における学習者同士のコミュニケーションや学び合いが可能であるとともに、学力向上が期待できるICTアプリケーションについて積極的に情報収集し、教育環境を充実させていく。
- ・学校紹介、オープンスクール、学校見学等の方法・内容、ホームページの内容を工夫するとともに、幼児教室、塾との信頼関係を深め、初等部のよさや魅力を積極的に伝えていく。

③ 幼稚部

- ・教職員一人ひとりが遊具・用具の活用方法を書籍や研修などを通して学ぶことを園内研修のテーマに設定するとともに、学んだことを全教職員間で共有し、保育に生かしていく。
- ・園行事において、子どもが主体となって活動できるよう物的環境を整えるとともに、子ども同士で活動する時間を十分に確保するため、活動内容を事前に十分に精査し、準備する。

- ・ 幼稚部の特色・保育内容を分かりやすく紹介できるよう、ホームページに掲載する写真の選択や文章の表現等を工夫するとともに、タイムリーに情報発信していく。

2. 財務の概要

(1) 教育活動収支

イ 事業活動収入の部

学生生徒等納付金は、大学・短大の学生数が減少したことにより、前年度予算と対比して、52,184千円減少の3,692,144千円（対前年度予算比98.6% 対前年度実績見込み比54,111千円減少 98.6%）の見込みである。手数料、寄付金、付随事業収入、雑収入は前年比減少、経常費等補助金は前年比増加を見込む。この結果、教育活動収入計は4,583,514千円（前年比104,190千円減少）の見込みである。

ロ 事業活動支出の部

人件費は、教職員人件費、退職金の減少により、前年度予算と対比して、110,375千円減少の2,975,311千円（対前年度予算比96.4% 対前年度実績見込み比106,909千円減少 96.5%）の見込みである。教育研究経費は、奨学費、修繕費、減価償却額が増加して、前年比3,182千円増加の1,780,306千円を見込む。管理経費は、前年比22,987千円減少の305,978千円を見込む。この結果、教育活動支出計は5,061,595千円（前年比130,180千円減少）の見込みである。

ハ 教育活動収支差額

教育活動収入計から教育活動支出計を差し引いた教育活動収支差額は、前年度予算と対比して、25,990千円増加の△478,081千円（対前年度実績見込み比12,339千円増加）の見込みである。

(2) 教育活動外収支

イ 事業活動収入の部

受取利息・配当金は、前年度予算と対比して、7,464千円増加の10,862千円（対前年度予算比319.7% 対前年度実績見込み比7,507千円増加 323.8%）を見込む。

この結果、教育活動外収入計は10,862千円（前年比7,464千円増加）の見込みである。

ロ 事業活動支出の部

予算計上はない見込みである。

ハ 教育活動外収支差額

教育活動外収入計から教育活動外支出計を差し引いた教育活動外収支差額は、前年度予算と対比して、7,464千円増加の10,862千円（対前年度実績見込み比7,507千円増加）の見込みである。

(3) 経常収支差額

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は、前年度予算と対比して、33,454千円増加の△467,219千円（対前年度実績見込み比19,846千円増加）の見込みである。

(4) 特別収支

イ 事業活動収入の部

資産売却差額の予算計上はない見込みである。

その他の特別収入は、現物寄付 3,809 千円（前年比 974 千円増加）、施設設備補助金の予算計上はない（前年比同額）見込みである。

この結果、特別収入計は 3,809 千円（前年比 974 千円増加）の見込みである。

ロ 事業活動支出の部

資産処分差額は図書処分差額の増加により、2,486 千円（前年比 221 千円増加）を見込む。

その他の特別支出の予算計上はない（前年比同額）見込みである。

この結果、特別支出計は 2,486 千円（前年比 221 千円増加）の見込みである。

ハ 特別収支差額

特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は、前年度予算と対比して、753 千円増加の 1,323 千円（対前年度実績見込み比 840 千円減少）の見込みである。

(5) 当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額の合計金額△465,896 千円から予備費 80,000 千円を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は△545,896 千円（前年比 34,207 千円増加）を見込む。基本金組入額は 252,606 千円、当年度収支差額は△798,502 千円（前年比 65,178 千円減少）の見込みである。

(6) 予算上の財務比率

〔 〕内は令和 5 年度

人件費比率	64.8%	〔 65.8% 〕
人件費依存率	80.6%	〔 82.4% 〕
教育研究経費比率	38.7%	〔 37.9% 〕
管理経費比率	6.7%	〔 7.0% 〕
減価償却額比率	12.9%	〔 12.2% 〕
学生生徒等納付金比率	80.4%	〔 79.8% 〕
補助金比率	△16.0%	〔 △15.5% 〕
経常収支差額比率	△10.2%	〔 △10.7% 〕
事業活動収支差額比率	11.9%	〔 12.4% 〕